

B—51 合成繊維の消費実態（第6報）

—化学繊維の普及傾向調査（着心地・取扱い・加工）—

昭和女大短大 刑部 昭子
○醍醐るり子
岡野 都
世古美佐江
椎名 米子
山良 順子
小ノ沢治子

1. 第5報と同一目的。

2. (1)調査時期・対象・部数は第5報と同じ。(2)着心地および取扱い、加工名・加工の内容・加工の用途の認識を性別・職業別・繊維別において考察を試み、さらに化学繊維、繊維製品の加工に対する希望事項についての感想を求めた。

3. 繊維別による着心地および取扱い、加工についての認識は、いづれも女性の方が高く、職業別順は稍不同である。着心地については抽出した9繊維中ナイロン・アセテート・キュプラ・アクリル、取扱いはナイロン・アクリル・アセテート・ポリエステル順で比較的正解率が高い。これは、知名度・利用度が高い第5報の結果と一致する。ことにナイロンの黄変、摩擦に対する強さ、軽さ、あざやかさなど顕著な特性が衆知されているようである。加工名は防水、プリーツ、防しわ・防縮、帯電防止加工が、加工内容では帯電防止加工、P・P・S・R、スコッチガード、ピリングが、加工の用途・利用については、スコッチガード、P・P加工の順でもっともよく理解されている。さらに化学繊維への希望事項として、化学繊維の問題点への改質要請が多く、ついで商品知識の普及徹底、呼称の統一整理、繊維製品の加工については、各種加工実施の要請、加工の内容・効力の表示、呼称についての希望が、今後の問題として提起された。